

小児



コーナー

「B型肝炎ワクチン」のお勧め

B型肝炎ウイルスは、体に入ると肝炎をおこし、長く肝臓にすみついて(慢性化・キャリア化)、肝硬変や肝臓がんをおこします。

日本ではかかる確率は低いとされ、1986年から、B型肝炎を持った母親から分娩の時に子どもにうつる(垂直感染)のを予防する母子感染防止策が実施されてきましたが、血液を介しての水平感染だけでなく、知らない間にかかることも多く、毎年約2万人がかかり、感染者は約100万人(約100人に1人)と推定されています。

あじま診療所
小児科 医師
森 英一



WHO(世界保健機関)では、1992年から、世界中の子どもたちに対して生まれたらすぐに国の定期接種としてB型肝炎ワクチンを接種するように指示していますし、小児科学会も推奨しています。

今の段階では、日本では定期接種ではなく有料となる任意接種ですが、3歳未満で感染すると慢性化しやすくなると言われており、B型肝炎、将来の肝臓がん予防のためにも早めの接種をお勧めします。打ち方は4週間隔で2回、さらに20~24週経ってから1回の合計3回接種になります。